

小さくても 強いハートを持って

心は小さくてもいい。

しかし、同時に強さを

持っていないければならない。

▼『番狂わせの起こし方』

「小心者」というと、悪いイメージになります。野村克也は自分のことを「私ほど気が小さい者はいないのでないか」というくらいに「小心者」と言っています。

野村は、解説などでも厳しい物言いをしたため、世の中からは「大胆不敵」「怖いものなどない」と見られています。だが、実際の野村は長くキャッチャーをやってきたこともあり、常に「最悪の状況を見据えてどうするかを考える」習慣がついていました。自然と、キャッチャーは「慎重にならざるを得ない」のです。心配性で、マイナス思考です。

だからといって、「心が弱くてはダメだ」と野村は言います。例えば、野村が教えたあるキャッチャーは当初、バッターの内角を攻めることができなかつたといいます。理由は「もしバッターにぶつけてしまったら、次の打席で自分がぶつけられる」という恐れからです。

これは「心の弱さ」です。考え得るあらゆる状況を想定するのはかまいませんが、かといって臆病になってしまい、やるべきことまでできなくなつては勝負になりません。「たとえ心は小さくても、ハートは強くなければいけない」というのが野村の考え方です。